

ベトナムスマホ決済最大手に出資、みずほが発表

2021/12/21 17:00 日本経済新聞電子版 417文字

みずほ銀行は21日、ベトナムのスマートフォン決済最大手、Mサービスに出資したと正式発表した。20日付で同社の株式の7.5%を取得した。出資額は150億～200億円程度とみられる。今後も成長が期待できるアジアでのリテール戦略をデジタル面から強化する。

Mサービスは決済サービス「モモ」を展開し、2000万人超が利用する。ベトナムで5割を超える市場シェアを生かし、複数サービスを1つのアプリから利用できるスーパーアプリを運営している。みずほはベトナムの大手銀ベトコムバンクにも出資しており、モモとの連携により伝統的金融とデジタルサービスの融合を進める。



みずほの大型の海外出資は6年ぶりだ

みずほは財務体質の改善を優先しこれまで大型の海外出資を控えてきたが、アジアの成長力を積極的に取り込む戦略に転換する。特にベトナムは今後も潜在的な経済成長の余地が大きいと期待されている。スマホの普及率は高いが銀行口座を持たない層も多く、アプリを起点とした金融包摂への貢献をめざす狙いもある。

許諾番号30097370 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.